

日本保健医療社会学会ニューズレター (No.127) 2024/4/28

目次

1. 第50回大会について
2. 理事会報告
3. 定例研究会の報告（関東）
4. 定例研究会の報告（関西）
5. 看護・ケア研究部会報告・告知
6. 渉外・国際交流活動の告知
7. 追悼 杉政孝先生（本学会名誉会員）
8. 追悼 木下康仁先生（本学会名誉会員）
9. 編集後記

1. 第50回大会について

第50回大会は、2024年5月25日（土）～26日（日）、千葉県西船橋駅最寄りの東京医療保健大学船橋キャンパスにて、対面で開催します。抄録もニューズレターと前後して届くと思いますが、一般演題は7セッション45本、RTDは8セッション予定されています。兼ねてよりお知らせしてきた通り、大会テーマは『弱い』ままで生きられる社会のために」とし、会長講演と教育講演は、同テーマのもとサブタイトルを「ひとりの看護学・教育研究者として」と「ひとりの医療社会学研究者として」の副題で、当学会の会員一人ひとりがメインテーマを深める契機になるパラレルメッセージとしています。シンポジウムは、「ケアの主体を問い直す」と題し、2名の司会者のもと3名の登壇者から地に足のついた実践と研究成果に基づくご発言があり、保健・医療の場における実践と研究を継続する会員のみならずとの意見交換は、どんなに豊かなものになるだろうと今から楽しみでなりません。

そして、今回は、当学会の50周年を記念して、理事会による公開シンポジウム「薬害と保健医療社会学の50年」も開催されます。この企画は、一般市民にも無料公開となります。

大会テーマのもと、できるだけ多様な方が参加できるようにしたいと考えて、事前申込の方にのみ、会長講演・教育講演・シンポジウムならびに50周年記念公開シンポジウムの4企画については、リアルタイムWeb参加できるようにしています。ただ、会場となる東京医療保健大学船橋キャンパスは、初の学外企画の開催となり、十分な施設設備ではないのです。キャンパスのWebシステムは、学外者に使用できないため、通信環境が必要な方は、個別にポケットWi-Fiなどをご用意ください。また、託児所を設けることも難しく、学外者にお貸しできる駐車場もなく、ご不便をおかけします。あらかじめ、大会事務局までご連絡いただければ、ご事情により対応したいと考えております。すでに、一般演題やRTDの発表者や共同研究者の方について、個別の対応を予定しています。今回の実行委員は、ほとんどすべてが看護師経験の分厚い教員や社会人大学院生、ボランティアは看護学部生ですの

で、施設設備の限界はあっても、ヒューマンパワーでご要望に応じます。どうぞ、遠慮なく、ご連絡ください。

当学会の会員に限らず、保健・医療・社会に関心を有するすべての方に活かしていただける発表が満載です。周囲の方をお誘いの上、可能な限り、事前のお申し込みをお願いいたします。

詳細は、大会ホームページ (<https://jshms-conference2024.jp>) をご参照ください。

みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

(第50回大会長：吉田澄恵氏 [東京医療保健大学千葉看護学部])

問い合わせ先：jshms50office@gmail.com (事務局長：伊東真理)

2. 理事会報告

2024年3月27日(水)に2024年度第1回理事会が開催されました。詳細は以下の通りです。

日時：2024年3月27日(水) 13:00~16:00

会場：ZOOM会議

出席者：金子会長、石川理事、田代理事、海老田理事、三井理事、佐藤理事、平野理事、井口理事、吉田大会長(第50回)、事務局 平野(記 国際文献社)

欠席者：松繁理事、美馬理事、朝倉監事、黒田監事

1) 第50回大会報告(第50回大会長)

吉田第50回大会長より、50回大会の進捗状況の報告があった。第50回大会関連企画として3月23日に開催された定例研究会の報告の論集への掲載について、研究活動委員会から報告者へ確認し、内諾を得た後に編集委員会から正式に依頼することとした。

2) 第51回大会について(第51回大会長)

平野第51回大会長より、2025年5月24-25日に、長崎大学医歯薬学総合教育研究棟で原則対面で開催し、事前申込の場合のみオンライン配信が可能なようにする予定であることが伝えられた。シンポジウム案や記念講演案について説明があり、グローバルゼーションを一つのテーマとすることから海外から2名の登壇者を招聘予定であることが伝えられた。

3) 園田賞(学会奨励賞)候補について(選考委員会)

佐藤理事より、3月21日に開催された選考委員会で審査を行った結果、受賞者候補が推薦され、承認された。

4) 研究活動委員会報告(研活理事)

三井理事より、第50回大会の進捗状況と3月23日に定例研究会を開催したことの報告があった。

5) 2024年度大会時評議員会・総会の議題と資料の作成について(会長・総務理事)

金子会長より次回理事会にて総会議案書を確認することが伝えられ、次回理事会日程を5月13日16-18時とした。

6) 編集委員会報告(編集理事)

田代理事より、論集の進捗状況、査読システムの導入について説明があった。査読システム導入に伴い、4月8日の編集委員会で規程類を変更することが伝えられた。論集のweb公開については即時公開とすることとし、総会議案書に経緯を記載することとした。

7) 看護・ケア研究部会報告(部会担当理事)

3/23に、関東定例研究会と共催で、公開部会を開催した。

8) 渉外・国際交流活動の報告(渉外・国際理事)

平野理事より現時点で大きな動きはないことが伝えられた。

9) ニューズレター127号の配信・広報(広報理事)

井口理事より、次号の発行について予定の確認と原稿依頼があった。

金子会長より、杉政孝先生(名誉会員)・木下康仁先生(名誉会員)追悼文について、それぞれ金子会長、松繁理事が執筆することが伝えられた。

10) 2023年度決算案及び来年度予算案について(総務理事)

石川理事より、2023年度決算案と2024年度予算案の説明があった。決算案についてオンライン入会改修やホームページ新規ページ作成があったことから予算額と決算額に差が生じていることが伝えられた。予算案について印刷製本費が用紙代値上げにより増額していること、査読システム導入にあたり費用を新たに計上していることが伝えられた。大会活動補助費に50回大会時の理事会企画の講師謝金とテーブル起こし費用として10万円を計上することとした。

11) 入退会者の承認(総務理事)

石川理事より、入会者22名の承認依頼があり、全員承認された。退会は2名、逝去は3名との報告があった。

12) その他

社会学系コンソーシアムについて、石川理事より、1月21日に評議員会が開催され、役員選挙があったことが報告された。

令和6年能登半島地震被災者に対する対応について、金子会長より、会費免除を行うことの提案があり、承認され、総会で報告することとなった。2024年度会費を免除することとし、2024年度会費請求書発送時に案内することとした。今後、特定非常災害となった場合に会費免除を行うこととした。

「ヘルスコミュニケーションウィーク2024」からの後援依頼について、石川理事より説明があり、承諾することとした。

(石川理事：総務担当)

3. 定例研究会の報告(関東/看護・ケア研究部会公開企画との共催)

看護・ケア研究部会公開例会と研究活動委員会との共催にて、2023年度第2回(第50回大会連動企画)を2024年3月23日に日本赤十字看護大学大宮キャンパスで開催しました。対面・オンライン合わせて37名の参加者がありました。第50回大会のテーマは「『弱い』ままで生きられる社会のために」です。そこで、『弱さの倫理学——不完全な存在である私たちに

ついて』(2023, 医学書院)を出版された新潟大学の宮坂道夫氏を迎え、「弱さを抱きしめて—あなたと私の正義論」というテーマでお話いただきました。宮坂氏は倫理について、先行する思想家の概念ではなく、「弱い存在を前にした人間が、自らの振る舞いについて考えるもの」という考えを軸に多様な角度から私たちの「弱さ」についてお話されました。問題提起として、従来のケア論・正義論への批判として、一般的なケアにおける二者関係ではケアの責任が双務的であるのに対し、医療におけるケアでは医療者が片務的に責任を負う構造が指摘されました。本来的には二者のケア関係は双方向的で対等であるべきで、対等性を求めることが二者関係の正義論の核心なのではないかと問いが投げかけられました。

指定討論者のお一人目は、私設図書館「梟文庫」を開設運営されている西尾美里氏にご登壇いただきました。西尾氏からは、現代の教育の枠組みで見逃されがち子ども特有の弱さについて指摘がなされました。特に学校という制度や環境が、「多様な育ちが前提になっていない」「個ではなく集団が優先される」「子どもの権利の軽視」という問題をはらんでおり、子どもには対話のテーブルが用意されていないこと等の問題提起がなされました。そして、教育が弱いまま生きられる社会を創造すること、私たち大人が未来のパートナーとしての子ども・教育をどのようにとらえ、今何をすべきか問われていると指摘がなされました。

指定討論者のお二人目は、精神医療をフィールドに長年社会学者として研究されている東京通信大学の榎原克哉氏にご登壇いただきました。榎原氏からは、精神医療における非自発的入院の研究から、医療と保護という点から医療倫理について論じられました。医療と保護にはグレーゾーンがあり、「弱い人たち」の「保護」をめぐる問題では既存の倫理概念との軋轢が生じる場面・制度や、倫理を考えるうえでどの二者関係を想定するかが重要であるという指摘がなされました。

その後、宮坂氏からのリプライとして、西尾氏には子ども・教育領域については一方的なケアを与える片務的な状況が起きやすいことに対する賛同が述べられました。その状況を変えるためには、個人と社会の両方の視点を往復しながら考えることの重要性も述べられました。榎原氏には、二者間で弱い—強いが問われる倫理と、より望ましい社会のあり方を考えるときに問われる倫理の両方を考えていく必要があること、後者の方が複雑で難しさを孕んでいることが述べられました。制度化を考える際には功利主義的な発想になりがちであるが、二者間の視点を欠いてはいけないことも確認されました。

最後に、全体討論として倫理学にとって法とはどのような存在なのかや、対等性をどうとらえていくのか、そして制度化することによって生じる新たなねじれがあることなどが話題として挙がり、議論が深められました。

(坂井志織：看護・ケア研究部会役員)

4. 定例研究会の報告 (関西)

日本保健医療社会学会関西定例研究会(第1回)は、2024年1月20日(土)15:00-18:00に、立命館大学朱雀キャンパスにて、Zoom配信を含むハイブリッドで開催されました。会場での参加は15名、Zoomでは34名の参加でした。医療社会学研究会、立命館大学生存学研究

所との共催で開催しました。テーマは「フーコーと精神医学と精神医学批判」です。

哲学博士にして精神科医でもある蓮澤優氏が、『狂気の歴史』を読むことで経験した「困惑」と正面から格闘した成果である『フーコーと精神医学 精神医学批判の哲学的射程』(2023年、青土社)の合評会という形式でした。異分野の書籍の合評会という形式を選んだのは、フーコーは、人文社会系諸学において影響力のある思想家であるだけでなく、医療や精神医療に関する著作もあるため、本学会でも言及されることが多いからです。評者は、医療社会学の美馬達哉とイタリア精神医療の人類学で知られる松嶋健氏でした。

蓮澤氏が、精神科の臨床に携わる医師としてのスタンスを崩さないままに、どうフーコーの問いに答えるかを議論の中心に据えて、ご著書の紹介をされました。それに対して、精神医療に関する保健医療社会学や歴史学の知見を美馬が紹介し、イタリアでの精神科病院の廃絶の経緯とそれを支えたフランコ・バザーリアの思想とフーコーの思想の比較という観点から松嶋氏がコメントした。研究者から実践家・当事者までの多様性をもつ本学会にとって、ディスカッションで語られた「フーコーを読むことでめまいを与えられて、臨床現場とか教育現場のあり方を別様に見るようになる経験」は、改めて大きな示唆を与えるものでした。なお、本研究会の記録は、「生存学研究所紀要」に掲載される予定です。

(美馬理事：研究活動担当)

5. 看護・ケア研究部会の告知

1) 看護・ケア研究部会総会開催について

看護・ケア研究部会では、活動案・予算案の報告や部会員間の親睦を深めることを目的に、毎年の学会大会期間中に部会総会を開催しております。今年度の部会総会は、下記の通り行います。部会員に限らず、参加は自由ですので、関心のある方は、ご遠慮なくお越し下さい。ご出席をお待ちしております。

日時：2024年5月26日(日) 11:30~12:00

場所：東京医療保健大学船橋キャンパス 会場 11 (516：委員会室)

議事：部会長挨拶、2023年度会計報告、活動報告、選挙結果報告、新役員挨拶、2024年度活動予定ほか

(松繁理事：研究活動担当)

6. 渉外・国際交流活動の告知

国際交流委員会では、関連する分野の国際学会や海外研究者招聘の予定、学会員の参加が可能な講演・セミナー等の情報提供を行っております。皆様からも、ぜひ情報をお寄せください。現在、以下について学会ホームページでもご案内しています。

- 第19回アジア太平洋社会学会 (APSA)
- ISA RC52 Interim Meeting 2024

(平野理事：国際・渉外担当)

7. 追悼 杉政孝先生 (本学会名誉会員)

金子雅彦 (本学会会長)

本学会の名誉会員でいらした杉政孝先生が、2024年1月14日に101歳で永眠されました。

杉先生は、本学会の前身である保健・医療社会学研究会を1974年に設立する際の発起人の一人でした。引き続き本学会でもご活躍され、2004年度に名誉会員になられました。杉先生は産業社会学の観点から保健医療分野を研究され、『病院の組織と人間関係』(医学書院、1973年)や『病院経営と人事管理』(日本労働協会、1981年)等のご著書があります。

私は残念ながら杉政孝先生と直接の面識はなく、ご著書を通じてです。1990年代初頭に私は防衛医科大学校に赴任し、医学生に社会学の講義をすることになりました。しかし、文系学部の教養課程で行うような社会学概論では学生の関心を引くことはできず、どうしたものかと考え、医療社会学を前面に出す講義内容にしました。しかし、当時はまだ日本語で読める医療社会学の教科書はごくわずかでした。そうした中、杉先生が日野原重明先生らと監訳されたフリーマンら『医療社会学』(医歯薬出版、1975年)や杉先生が分担執筆された『保健医療の社会学』(園田恭一先生・米林喜男先生編、有斐閣、1983年)は、貴重な講義のネタ本でした。杉先生の産業社会学的観点からの議論は、組織社会学や制度論に関心がある私にとってなじみのある概念が少なからずあり、身近に感じました。

その後、日本語で読める医療社会学の教科書が多く出版されるようになり、私も数冊分担執筆してきました。また、医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版)に見られるように、日本の医学教育カリキュラムの中に医療社会学が組み入れられるようになりました。杉先生をはじめ、医療社会学の先人達が積み上げてきた実績の成果といえるでしょう。

ここに杉政孝先生のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

8. 追悼 木下康仁先生 (本学会名誉会員)

松繁卓哉 (理事)

本学会名誉会員の木下康仁先生が今年3月18日(月)に逝去されました。先生は1953年3月のお生まれですので同月で71歳になられるところでした。木下先生の数々の業績につきましては、本学会会員の皆様にはあらためてご紹介するまでもないほどに、顕著で多大なご功績がございます。皆様も、直接的に、間接的に、たくさんの教えを先生からいただいたことと思います。

木下先生によるM-GTA(修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ)の開発・確立は、今日では、看護・ソーシャルワーク・介護・教育・リハビリテーションなど、ヒューマンサービス諸領域の研究において普及し、これを用いた数々の研究がそれぞれの領域実践に大きな知見をもたらしています。M-GTAは、一研究手法の存在を超えて、社会的活動としての研究が果たすべき役割(研究結果の実践的活用)を示唆するとともに、客観主義・構築主義の分極化へと進む知識のあり様を克服する研究的立場を提示するものでもあり、私達はあらためて木下先生のご研究の深遠さを感じ入るところです。また先生は、批判的実在論を手掛かりに質的研究と自然科学・実証主義の関係の再構成に向けて取り組んでこられました。

私は、2005年4月より立教大学大学院社会学研究科博士後期課程の木下ゼミにおきまして博士論文のご指導をいただきました。私にとって忘れられないことは、研究指導の各場面で木下先生からいただいた簡潔なお言葉でした。博士論文の構想発表の場や、中間審査の場などで、私のつたない発表に対して木下先生は、ほぼワンフレーズ、ワンセンテンスでご指摘をくださいました。あまりに簡潔な言葉であるために、私はその言葉の意味するところが当初は分からず、その後、数か月間にわたって自問自答を重ねつつ煩悶することとなるのですが、ある瞬間に、その言葉が私の進めている研究の根本的な欠落を端的に言い表していることに気が付く、ということがしばしばありました。木下先生のご指導には、そのようなところがございました。自分自身が考え抜き様々に思考を重ねないことには真の気づきには至らないことを見抜いたうえで、あえてそのようなご指導をしてくださったことを今では感じる事ができます。もっとも、同じくご指導を受けたゼミの同窓の面々にお話を聞くと、かならずしも皆そのようなスタイルでご指導を受けたようではないので、相手のタイプ・性格に応じた指導スタイルを使い分けておられたのかもしれませんが。

本学会会員の皆様も、きっとそれぞれに木下先生との思い出をお持ちのことと思います。私達は、まだたくさんことを木下先生から教わりたいと思っていたところに、このたびのご訃報に接し、深い悲しみに包まれています。先生から受けた教えと優しさを胸に保健医療社会学のさらなる発展に向けて精進していくことが、私達ができる先生への恩返しの一つのかたちかもしれません。

木下先生、ありがとうございました。

ここに深く哀悼の意を表し、ご冥福を心よりお祈りいたします。

9. 編集後記

ニューズレターNo.127では、第50回大会直前のご案内についてお届けしました。プログラム等の情報はホームページにも掲載されておりますので、そちらもご覧ください。また、1月から3月に開催された定例研究会報告も掲載しております。日本保健医療社会学会ニューズレターは、No. 92からPDFファイルのメールマガジン形式で配信しています。また学会ホームページ (<https://square.umin.ac.jp/medsocio/>)でも公開しています。

(井口理事：広報担当)

発行：日本保健医療社会学会	編集：広報担当（井口高志）
学会事務局：東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター	
jshms-office@as.bunken.co.jp	TEL：03-6824-9375